

“漢字は覚えやすい”というのは“読み”のことで“書く”ことはやはりむずかしいのではないか。

“読み”と“書き”の間には、赤ちゃんの“はいはい”と“あんよ”との関係に似たものがあります。“はいはい”と“あんよ”とを同時にさせたのでは、“はいはい”はできても“あんよ”は決してできるようにはなりません。

それは、“あんよ”が本質的にむずかしいためにできないのではなくて、時期が至らないためです。

つまり、“はいはい”することにより、赤ちゃんは、腕の力、足の力をつけているのです。“はいはい”するから、つかまり立ちするだけの“腕力”と“脚力”が養われるのです。だから、“はいはい”と“あんよ”を同時にさせてみたところで、成功するはずはありません。それどころか、足を彎曲させてしまうのが落ちです。

“読む”ことにより、漢字の字形についての認識が育つのです。だから、漢字を読む機会をたびたび重ねるほど、潜在的に“書く”力が養われていくのです。それは、“はいはい”する間に“あんよ”する力

が養われているのと同じです。

また“読み”も十分でない時に、したがって、字形について認識もないうちにその漢字を書かせたって、書けるようにならないのが当たり前です。それは、書くことがむずかしいのではなく、まだ書く時期になっていない時に書かせるからです。

それでは、“はいはい”も十分にできない赤ちゃんに“あんよ”の練習をさせて、“あんよ”はむずかしいというようなものです。

漢字を十分に“読む”機会を与えて、読む力を十分につけてやって、その上で“書く”練習をさせるならば、子供は、漢字がすぐ書けるようになります。最初から形の良い字を書くようになります。“書く”ことは決してむずかしいことではないのです。

今までは、漢字学習と言いますと、必ず、初めて漢字が出てきたところで、その漢字の“読み”“意味”“使い方”を教え、“筆順”を教えて、すぐに“書く”練習をさせます。全く、生まれたばかりの赤ちゃんに“あんよ”を求めるようなものです。これではできるはずがないのです。むずかしいのではなく、できないことを求めているのです。